令和５年度次世代のためのメディアリテラシー育成事業　ふくしま情報モラル教育研究校

白河市立表郷小学校　第６学年１組　国語科学習指導案

時間：令和５年９月７日（木)　第５校時

場所：イングリッシュルーム

１　単元名　筆者の考えを読み取り、これからの社会での生き方について自分の考えを広げよう

２　教材名　『メディアと人間社会』　池上　彰　『大切な人と深くつながるために』　鴻上　尚史　（光村図書）

　　　　　 【資料】プログラミングで未来を創る

３　単元の目標

（１）文と文との接続の関係、文章の構成や展開について理解することができる。「知識及び技能」（（１）カ）

（２）文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。

「思考力・判断力・表現力」（Ｃ（１）カ）

（３）複数の文章から粘り強く自分の考えをまとめ、思いや考えを伝え合おうとしている。

「学びに向かう力、人間性」

４　単元について

（１）国語科授業で見られている子どもの姿と情報モラルとの関連

（略）

本単元では、複数の文章を重ねて読み、筆者の主張を捉えていく。そこから、児童の課題であるメディアが人間に与える様々な影響への理解や人とのコミュニケーションの方法を見つめ直すきっかけとしたい。そして、情報化社会や生き方に対する自分なりの考えをもち、他者と交流することで、自分の考えを広げ、深めることを目標としたい。

（２）学習指導要領と本単元のつながりと情報モラル教育との位置付け

　学習指導要領の「思考・判断・表現等」のC読むことには、（１）カ「文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること」と記されている。教材文「メディアと人間社会」は、段落ごとにメディアと人間の欲求についての事例を挙げながら、筆者のメディアとの付き合い方についての論が展開されている。「大切な人と深くつながるために」は、読者への問いかけや生活経験などの身近な具体例を挙げながら、よりよいコミュニケーションについての筆者の論がまとめられている。情報モラル教育の位置付けとしては、メディアリテラシーと情報モラルについて道徳科、総合的な学習の時間で年３回ずつ実施するのに加え、国語科として取り扱う２単元のうちの１単元である。（他１単元は「鳥獣戯画」を読む　　調べた情報の用い方）

（３）単元の指導で大切にしたいこと

指導にあたっては、教材文の構成や工夫、筆者の主張に注目しながら、自分の経験や知識と重ね合わせることで、メディアとの付き合い方やよりよいコミュニケーションについて考えていく。本時では、正解がない課題に対して、他者との交流を通して生まれた考えや気付きを大切にしたい。そこで、個人の考えをロイロノートのフローチャート機能を活用し整理させ、共有することで、自分の考えを広げていきたい。そして、次時以降のこれからをどう生きるかという大きな課題に対して、自分の考えを確立していく際の手がかりとしたい。

５　単元の指導計画（総時数６時間　本時　５/６時）

 第１次　（１）これからの社会と生き方について話し合う活動への見通しをもって教材文を読む。　　　１時間

第２次　（１）「メディアと人間社会」を読み、論の展開や表現のしかた、主張を捉える。　　　　　　　1時間

　　　　 （２）「大切な人と深くつながるために」を読み、話の展開や表現のしかた、主張を捉える。　１時間

　　　　 （３）２つの教材文を比べ、それぞれの特徴や共通点を整理し、自分なりの考えをもつ。　　　１時間

第３次 （１）筆者の考えに対して、友達との交流を通して、自分の考えを広げる。　　　　　１時間（本時）

　　　　（２）これからの社会をどう生きるかというテーマで考えを交流し、考えを広げる。　　　　　１時間

６　本時のねらい

　２つの教材文の筆者の主張に対して、自分の考えをもち、友達との交流を通して、自分の考えを広げたり、深め

たりすることができる。

７　学習過程

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **学習活動・内容** |  | **〇教師の働きかけ　　　　※評価** |
| １　メディアやコミュニケーションについて集計  　したアンケート結果をクイズにして出題する。  メディアクイズ　※提示例（３問程度出題する）  （テレビ、インターネット、その他ＳＮＳを含む）  （１）1日にメディアを使用する人数  （２）メディアを使って情報を発信したことがある  　　　人数  （３）メディアを活用して良かった経験をした人数  （４）メディアを活用して良くない経験をした人数  （５）人とのコミュニケーションが得意な人数  （６）自分から人と会話をしようとしている人数  ２　めあてを捉える。    　　」  「二人の筆者の主張に対する、自分の考えを広げよう。  ３　前時の学習で筆者の主張に対して、自分なり  　にまとめた考えを、自らの課題に注目しながら、  　整理する。  ４　二人の筆者の主張に対しての考えを交流す  る。  （１）自分の知識や経験と比べて気が付いたこと  （例）一日の生活の中で、インターネットやメディアを使う機会が多い。  （例）便利な面が多いので、その欠点について考えることがあまりなかった。  （２）自分の考えとの共通点や異なる点  （例）よいコミュニケーションはたくさん人と話  　　すことだと思っていたが、気持ちを伝えて人  　　とぶつかったり、折り合いをつけたりするこ  　　とも大切だ。  （例）メールやＬＩＮＥだけでなく、直接話すコミ  　　ュニケーションも大切だと思った。  （例）二人とも似た意味の言葉を使って、似た内容を主張していると思う。  ５　振り返りをノートに書く。  ６　次時の学習の見通しをもつ。 | 5分  5分  5分  12分  12分  6分 | 視点１　**授業づくりにおいて、子どもが「学ぶ楽しさ」を味わうための工夫**  　児童の実態アンケートから、メディアとコミ  ュニケーションの実態について考えさせること  で自分たちの課題を捉えさせ、学習の意義を見  出す。  出す。  ○　アンケートの結果が教材文や筆者の主張に関  　連していることに目を向ける声かけをする。  ○　アンケートの実態やクイズの解答結果に注目  　させることで、自分たちにメディアとの関わり方  　や情報化社会で生きていくための課題があるこ  　とを捉えさせる。  ○　一人で考える時間を設けることで、筆者の主張  　に対する自分の考えを再考できるようにする。  ○　ロイロノートを活用し、資料を用いながら交流  　する。  ○　ペアトークを行うことで、全体での発表につな  　げられるようにする。  視点２　**授業において、子どもが自己の成長を感じるための工夫**  　それぞれの考えをロイロノートで共有し、自分  の考えを他者と比べながら話し合うことで考え  が広がり、深まる。  ○　ロイロノートの資料をもとに全体の場でも発  　言するように促す。  ○　意図的な指名により、話合いを広げる。  ○　児童のつぶやきなどから話合いをコーディ　　　ネートし、考えを板書で視覚化する。  ※　自分の考えを伝えようとしたり、相手の考えを聞こうとしたりしている。  【主体的に学習する態度】（発言・聞き方）  ○　振り返りで授業を終結することで、自分なりの  　考えをまとめられるようにする。  ※　複数の文章や友達の考えから、自分なりの考えを広げている。　【思・判・表】（発言・ノート） |

８　板書計画

気が付いたこと

ふりかえり

これからは、自分の目的に合わせてメディアを正しく使い、よい人間関係をつくるための人とのコミュニケーションの練習も自分から進んで挑戦していきたい。

「メディアと人間社会」　池上　彰

「大切な人と深くつながるために」鴻上　尚史

アンケートから・・・コミュニケーションの練習

メディアとの付き合い方

め　筆者の主張に対する、自分の考えを広げよう。

メディアと人間社会　　　　　大切な人と深く

つながるために

筆者の主張

課題

・一日の生活の中で、インターネットやメディアを使う機会が多い。

・便利な面が多いので、その欠点について考えることがあまりなかった。

自分の考えと比べて

・気持ちを伝えて人　とぶつかったり、折り合いをつけたりすることも大切だ。

・直接話すコミュニケーションも大切だと思った。

・二人とも似た意味の言葉を使って、似た内容を主張していると思う。

コミュニケーションの練習をやればやるだけ上達し、大切な人と出会い、深くつながっていく。

人間がどんな欲求をもっているか、また、メディアに何を求めているのかを意識してメディアと付き合うことが重要。